

学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2024年	
受賞タイトル	優秀賞	
区分	IV. 都市ディスプレイデザイン	
フリガナ	イバシチサト	
制作者名	石橋 千郷	
フリガナ	ダイドウダイガク コウガクブ ケンチクガク	
卒業時の大学 学部・学科	大同大学 工学部 建築学科	
フリガナ	フナシ ニナ	職名
推薦者名	船橋 仁奈	准教授
フリガナ	コノサホウ	
作品名	この作法	
概要	<p>①発想の独自性 空間に対する所有意識 コロナ禍以降、仕事と自宅を分ける目的で、商業施設やフリースペースでの長時間利用者が増加している。多様化する社会の中で個人の居場所の選択肢の一つとなるような場が今求められている。私は、人々が無意識的に活用している凸凹に着目し、そこに芽生える空間に対する所有意識を調査する事で、公共空間における多様な私的領域の創出を試みる。</p> <p>②空間のインパクト 人と家具と建築の関係性 家具には人の所有意識や私的領域への意識が生まれやすいため、部屋の中にある家具に注目し、20歳以上の男女30名を対象に、私的領域に関する意識調査を行った。その結果、1)凸凹に合わせて家具が調度されるケースが多い、2)納まりの良さが所有意識を高める、3)家具自体で凸凹を生み出して身体に近い空間を創出する、4)他者と空間を共有している場合は家具が私的領域を生み出す間仕切りの役割を果たすことなどが分かった。これらを元に、家具的空間操作により私的領域の創出を試みる。</p> <p>家具に対する所有意識 行動領域 空間に対する所有意識</p> <p>・20代女性 ・学生 ・戸建2階 ・3人姉弟 ・右利き</p> <p>・40代女性 ・自営業 ・戸建2階 ・2人姉弟 ・右利き</p> <p>私的領域に関する意識調査の結果 S:1/200 [一部抜粋] 低い 高い</p> <p>③生活の質の向上 多様なライフスタイルを生み出す空間 計画対象地には3つの改札が集まっており、多数の店舗が出店するなど、不特定多数の人々が日々往来する地下街である。サラリーマンや学生、家族連れ、高齢者など、様々な使い手がそれぞれの目的に応じて利用することができるため、部屋として認識される空間（寝室、スタディールーム、オフィスなど）もあれば家具（机や椅子、棚など）や道具（手摺や段など）として認識される空間もあり、それぞれの場所の使われ方が多様に変化する。</p> <p>空き店舗への介入 ユニットの積層 階段の挿入 地上地下の連結</p> <p>④社会的な意義 公共空間における私的領域の設計 一つとして同じ形やサイズを持たないこの空間は、その場を使う人々に様々なメッセージを投げかけ、彼らのニーズに応じていく。空間を家具のスケールによって捉え直すことで、人と空間との距離近づけ、そこに「自分の居場所」であるという所有意識を芽生えさせる。それこそが、公共空間における新たな個人の居場所の獲得につながる。また、このユニット群は地下街と地上部を繋ぐ役割も果たしており、久屋大通公園への新たな立体ファサードとなる。そもそも、地下街と地上のつながりはほとんどなく、久屋大通公園が建設されたことで、更に地上部・街との関係が気薄化している場所である。地下街と地上のつながり生み、都市に対して表裏をつくらぬような計画とすることで、名古屋特有の立体都市空間が生まれるのではないかと考える。</p> <p>視覚的につながる 通音効果を生む 隣壁で空間を認識する 空間が交わる</p> <p>個室が現れる 光・風の通り道になる 多様な活動を生む 既存躯体を活かす</p> <p>⑤空間ディスプレイの新しい可能性 家具から都市までを包み込むディスプレイ空間 本提案は、a) 家具のような道具に近いスケールから、b) 身体を包むインテリア的なスケール、c) それらの集合体である建築的なスケール、d) そしてそれらが周辺環境と繋がり合う都市的スケールまでを有する。この立体的に組み上げられた家具の集積のような空間は、人々が思い通りに利用し、様々な人々の活動を生み出す拠点となるような、多様な空間の捉え方を可能にするスケール横断型ディスプレイ空間であると言える。</p> <p>この作法 模型写真</p>	

